

## I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

### ○計画期間;平成21年6月～平成27年3月(5年10月)

#### 1. 概況

平成21年6月30日に認定を受けた小城市中心市街地活性化基本計画は、「住んでよし、訪ねてよし、和で織りなす味わいのある美しい城下町」を将来像として、「“城下町や羊羹”など地域の特徴を活かした交流人口の拡大」、「魅力ある都市・商業空間の充実による暮らしやすい環境づくり」を目標に活性化事業を推進している。

基本計画に掲載された事業計画の着実な推進を図るためには、街づくりの多様な主体による合意形成の場(中心市街地活性化協議会)だけでなく、個別事業の具体化に向け、現場主導で計画を着実に推進するマネジメント体制の構築が必要と判断し、中心市街地の空き店舗を改装して平成22年10月17日に活動拠点施設(おぎ元気館)オープンに合わせて中心市街地活性化協議会小城市タウンマネジメントセンター(TMC)を設置するとともに、小城市中心市街地活性化推進室を配置し、官民連携の計画推進体制を構築している。

おぎ元気館を活用して、試行的事業として平成22年10月から朝市の開催や、平成23年度には小城の街の賑わいづくりの一環として文教の里「小城」の自然や景観、歴史、文化、まちづくり等をテーマにした「おぎ元気塾」を開催している。加えてH22年度に地域住民主体で実践する新しい時代のまちづくりを希求し、立ち上がった小城本町区のまちづくり協議会準備会活動の拡大により「議論」から「行動」へとステップアップを図り、住民が自ら考え、行動する新しいコミュニティづくりに取り組むとともに、NPOや大学、民間事業者等、地域が一体となって観光やまちづくりの分野における具体的な市民協働モデルづくりを目指している。

また「商店街元気づくり事業」による空き店舗対策を活用した出店支援の実施を行い、中心商店街への来街機会の創出と買い物場の提供を通じ、商店街の振興や農商工連携を見据えた地域間交流の促進を目指している。

その一方で、目標達成に寄与する主要事業である町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業、観光物産館ファーマーズマーケット整備事業、大型商業施設空き店舗スペースを活用したテナントミックス施設整備事業の進捗状況が予定通りでないことから、今後の対策によっては目標達成に影響を及ぼすことが懸念される。

基本計画に掲載されている55事業のうち、7事業が完了、ソフト事業など19事業が事業実施中、未完了が29事業(うち16事業が未着手)の状況である。

基本計画掲載事業を積極的に推進していくことによる目標指標の改善を目指し、必要に応じて事業の拡充や追加などの検討を行う。

## 2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
“城下町や羊羹”など地域の 特徴を活かした交流人口 の拡大	中心市街地 の歩行者・自 転車通行量	1,818 人 (H20)	1,880 人 (H26)	1,849 人 (H23)	—	③
魅力的で暮らしやすい都市・ 商業機能の充実	中心市街地 商店街の年 間小売販売 額	2,469 百 万円 (H16)	2,470 百 万円 (H26)	2,336 百 万円 (H23)	—	④

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

## 3. 目標達成見通しの理由

### ①「中心市街地の歩行者・自転車通行量」について

人口減少や少子高齢化の進展や地域経済の衰退により逡減していた中心市街地の歩行者・自転車通行量が、平成 22 年度からわずかながら増加に転じているものの、町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業の事業着手の不調や、観光物産館ファーマーズマーケット整備事業並びに大型商業施設空き店舗スペースを活用したテナントミックス施設整備事業実施には時間を要している。

尚、今年度から着手した市の3つの拠点整備(まちなか市民交流プラザ整備事業、小城公園高質化推進事業、JR小城駅周辺環境整備事業)を中心に官民連携及びソフト・ハード連携により相乗効果を生むような取組みを進めることで、増加基調は維持できるものと考ええる。

### ②「中心市街地商店街の年間小売販売額」について

今年度空き店舗等対策支援事業等による新規出店実績が2店舗及び空き店舗を活用したチャレンジショップが1店舗開店をしているが、街路事業により取り壊しになった店舗等もあり、また商店街既存店舗の売上額についても依然減少傾向であるため、厳しい状況に変わりはないものと考えられる。

## 4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

## 5. 今後の対策

今年度より着手した市の事業を基軸に据えて、基本計画における活性化の4つの項目（組織、デザイン、プロモーション、経済建て直し）を基本として官民連携による戦略的な事業展開を図る。

交流人口の拡大に向けて拠点整備を進めるとともに、観光客等の誘致活動を活発化させる。段階的に整備の終わった各拠点を、「点」から「線」として結び、回遊性を高めながら、「線」から「面」へと街を育むことを戦略とする。市の3事業を中心に据え、「線」の実現に取り組み、それに合わせて様々な事業をつなげていくことで「面」の実現を目指す。

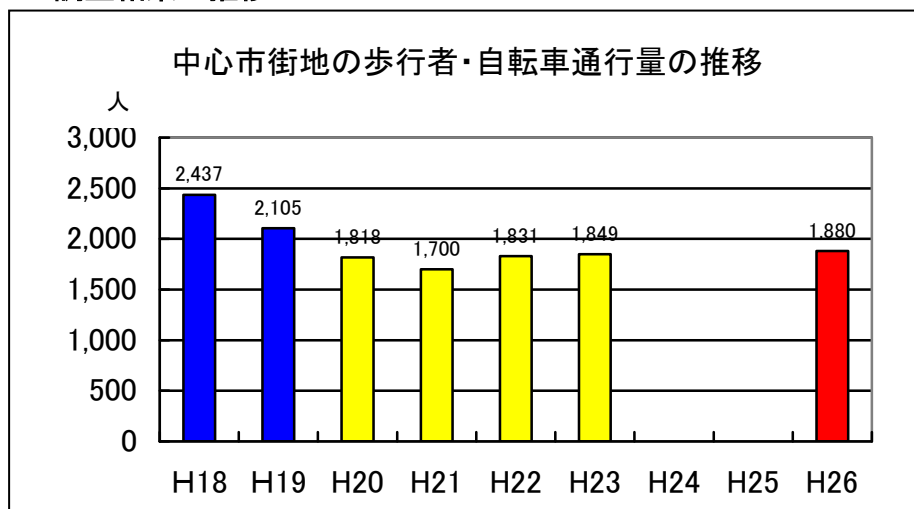
また、回遊性の向上を図り、観光客等の滞在時間の延長による経済効果等を地域が享受する「仕組みづくり」と「仕掛けづくり」を検討、構築、運営する。

一方、民間事業主体が取組む各主要事業町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業の事業化困難や、観光物産館ファーマーズマーケット整備事業並びに大型商業施設空き店舗スペースを活用したテナントミックス施設整備事業については、調整等が進まず停滞状態のため計画期間内の遂行が困難になる恐れがあり、早急な対応策を検討している。

今後も基本計画に掲載された事業を堅実に推進するとともに、必要に応じて新たな事業の取り入れや代替策、既存事業の拡充等による基本計画の見直しの検討も視野に入れながら関係諸団体と連携し中心市街地の活性化を推進し数値目標の達成を目指していく。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「“城下町や羊羹”など地域の特徴を活かした交流人口の拡大」 「中心市街地の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P58～P65 参照

### 1. 調査結果の推移



年	人／日
H20	1,818 (基準年値)
H21	1,700
H22	1,831
H23	1,849
H24	
H25	
H26	1,880 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査（毎年度10月の平日と休日の2日間（9時～19時）実施）

※調査月；平成23年10月16日（日）、平成23年10月19日（水）

※調査主体；小城市中心市街地活性化協議会

※調査対象；3地点（小城庁舎前、本町通り（NTT前）、JR小城駅前）

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 高次都市施設／再活性化拠点整備プロジェクト・まちなか市民交流プラザ整備事業（小城市）

事業完了時期	【未】平成 23 年度～平成 26 年度
事業概要	行政サービス機能と市民活動支援機能(NPO 支援オフィス等)、産業支援機能、情報発信機能等の多機能を複合施設「まちなか市民交流プラザ」の整備
事業効果又は進捗状況	平成 25 年 1 月に市役所が本庁舎方式へ移行し、小城庁舎が廃止となるため、小城庁舎跡地の再活性化拠点施設整備を計画している。 現在、平成 24 年度の基本設計に向けて施設内容等を検討協議中である。

### ②. 再活性化拠点整備観光物産館ファーマーズマーケット整備事業（株まちづくり小城）

事業完了時期	【未】平成 25 年度～
事業概要	道(まち)の駅の拠点となる施設として、市内の特産品の展示と産直販売店舗、テナントミックス店舗、交流スペースなどを備えた観光物産館等の整備
事業効果又は進捗状況	「高次都市施設／再活性化拠点整備プロジェクト・まちなか市民交流プラザ整備事業」と事業スケジュールを合わせる必要があるため、事業内容等が固まり次第、基本計画の変更を行う予定である。

### ③. 大型商業施設拡充整備事業（株スーパーモリナガ）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	大型商業施設の移転新築による店舗面積と駐車場の拡充及び地産地消コーナーの設置
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 6 月にリニューアルオープン。中心市街地商店街における大型商業施設として安定した集客を得ており、歩行者・自転車通行量及び年間小売販売額の増に寄与している。

### ④. 町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業（株まちづくり小城）

事業完了時期	【未】平成 21 年度～
事業概要	飲食店、物販施設、交流広場、ギャラリー等の改修整備及びまちなかナビゲーター(案内人)の設置
事業効果又は進捗状況	戦略補助金を活用し、事業の実施を目指したが、地権者との協議が不調に終わり、事業の着手が出来なかった。以来現在に至るまで事業化の目途が立っていない状況にある。 今後の対策として、当該事業の基本的な考え方及び機能を踏襲し、未活用の登録文化財施設を活用した代替事業等の検討を進め、基本計画の変更を行う予定である。

⑤. 大型商業施設空き店舗スペースを活用したテナントミックス施設整備事業（㈱まちづくり小城）

事業完了時期	【未】平成 22 年度～
事業概要	中心商店街の大型商業施設空き店舗を改築・改装した集合型飲食店街(屋台村)の整備及び中心商店街と連携した集客イベントの実施。
事業効果又は進捗状況	中心市街地活性化診断・サポート事業(経済産業省)を活用し、専門家の助言を受けながら事業内容等の検討を重ねてきたが、具体的な協議が図られず、また事業実施場所の関係者等との調整・協議に時間を要するため実行が困難である。

⑥. 【追加】地域創造支援事業/商店街元気づくり事業（まちなか賑わい拠点整備支援）（NPO法人「天山ものづくり塾」）

事業完了時期	【未】平成 24 年度～平成 26 年度
事業概要	小柳酒造酒蔵等を各種イベントに活用し、賑わい創出の集客コミュニティ施設としての整備
事業効果又は進捗状況	社会資本整備総合交付金を活用し、酒蔵の改修・保存を行い小城市中心市街地の交流イベント広場として活用することによるまちなか賑わい創出の拠点となり、中心市街地としての集客効果を生み出し、中心市街地全体の回遊性の向上による賑わい創出に寄与する事業である。

⑦. 高質空間形成施設/小城公園高質化推進事業・エントランス広場等の整備

事業完了時期	【未】平成 23 年度～平成 26 年度
事業概要	景観向上に向けた公園内道路、広場、駐車場の舗装整備事業
事業効果又は進捗状況	公園内の施設の充実とバリアフリー化を図るとともに、エントランスの修景作業を行い歴史文化拠点として景観に配慮した高質な緑空間形成を図るため、平成 24 年度に実施設計、平成 25 年度に工事着手の予定である。

⑧. 地域生活基盤整備/JR小城駅周辺整備事業・駅前広場整備

事業完了時期	【未】平成 24 年度～平成 25 年度
事業概要	駅前交通広場、ロータリーの再整備及びバリアフリー対応の公衆トイレの整備
事業効果又は進捗状況	JR小城駅内の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、安全で快適な歩行者空間の確保等を図るため、ロータリー等の見直しによる駅前広場の再整備を行い、利用者増加を図る。平成 24 年度に実施設計並びに一部工事着手の予定である。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」は、平成 22 年度から微増しているが、町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業の事業着手が不調に終わっているが、代替事業として「小柳酒造酒蔵等」の活用を、まちなか賑わい拠点整備支援事業として取り組み、基本計画の目標値達成に向けて事業を進めていく。

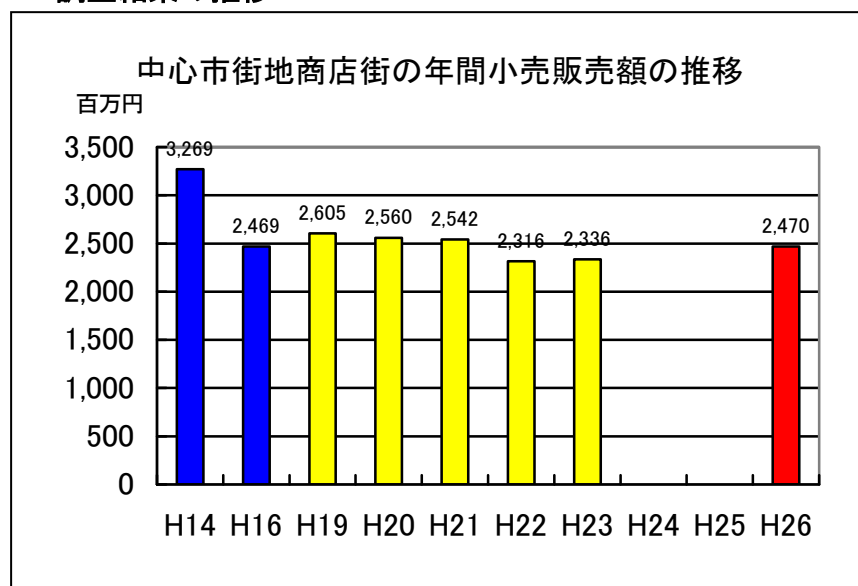
また市が取組んでいる主要事業(まちなか市民交流プラザ整備事業、小城公園高質化推進事業、JR 小城駅周辺環境整備事業)の3つの拠点を中心とした交流人口の拡大に向けた整備を進め、中心市街地へ訪れる機会を増やすことにより目標値の達成を目指していく。

課題となっている再活性化拠点整備観光物産館ファーマーズマーケット整備事業については、厳しい経済情勢も背景として具体的な見通しが得られない状況にあり、目標達成は困難であると見込まれるが、代替事業として小城公園内に「おもてなし茶屋・羊羹セレクトショップ」を設置する予定であり、交流人口の増加が見込まれ基本計画の目標値達成を進めていく。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「魅力的で暮らしやすい都市・商業機能の充実」

「中心市街地商店街の年間小売販売額」※目標設定の考え方基本計画 P66～P68 参照

### 1. 調査結果の推移



年	百万円
H16	2,469 (基準年値)
H19	2,605
H20	2,560
H21	2,542
H22	2,316
H23	2,336
H24	
H25	
H26	2,470 (目標値)

※調査方法；平成 16 年、平成 19 年は商業統計調査のデータを用い、平成 20 年からは市独自に調査（ヒアリング）を実施

※調査月；毎年 4 月に実施

※調査主体；小城市

※調査対象；中心市街地商店街の年間小売販売額

## 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 再活性化拠点整備観光物産館ファーマーズマーケット整備事業（株まちづくり小城）【再掲】P4 参照
- ②. 大型商業施設拡充整備事業（株スーパーモリナガ）【再掲】P4 参照
- ③. 地域創造支援事業／商店街元気づくり事業（空き店舗等対策支援）（民間事業者）

事業完了時期	【実施中】平成22年度～平成26年度
事業概要	空き店舗や空き家を活用し、商店街団体等や個人事業者が新たに出店又はコミュニティ施設として活用するための初期費用への助成
事業効果又は進捗状況	平成22年度は事業採択者がなかったが、平成23年度は当該事業を活用した出店は2店舗となっている。その他に、事前相談に来られた2店舗が事業活用はせずに出店し、計画期間内の空き店舗活用数の増加に寄与している。

- ④. 町屋「深川家住宅」活用による集客交流施設整備事業（株まちづくり小城）【再掲】P4 参照

## 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

経済不況の影響は大きく、需要低迷等による小売販売額減少のほか、民間事業の事業着手の不調や事業の遅れ等が生じているため、商店街への集客アップとはならず年間小売販売額の推移は減少傾向にあり、今後も不況が長引き目標達成に影響を及ぼすことが懸念される。

こうした中でも商店街元気づくり事業(空き店舗等対策支援)により2店舗が出店し、商店街元気づくり事業(チャレンジ起業家支援)により1店舗が開店をしており、着実に実施されている事業もある。今後も目標達成に向けて、引続き最大限努力をしていく。

観光物産館ファーマーズマーケット整備事業の代替事業として、小城公園内に今後「おもてなし茶屋・羊羹セレクトショップ」を常設し、市内外からの年間を通した恒常的な集客を図り小売販売の向上に努める。又、まちなか市民交流プラザに、地元の一次・二次産業者と提携し、季節に応じた特産品や小城市の名産品販売拠点として産業情報発信施設(水と食の文化交流施設:仮称)の整備を検討している。

H22年度に取り組んだ中心市街地商店街エリアマネジメント推進事業による小城本町通り商店街再生計画(城下町ルネッサンス計画)策定の実績を踏まえて、H23年度からは再生計画に基づく具体的な事業の実施に向け、また街路事業の実施主体である佐賀県とも連携をとりながら必要な検討及び対策を講じ、基本計画への事業追加を検討していく。

H25年度からの小城祇園祭り700年祭記念イベントや長崎自動車道小城パーキングエリアスマートインターチェンジの開通など観光客確保に資する要素を見据えた効果的・計画的な商業観光プロモーション・イベントの実施を検討していく。そのためには官民連携の受け皿組織体制づくりが最も重要であることから、(社)小城市観光協会、商業者、民間事業者との連携を図るほか、市内のまちづくり推進本部会議、中心市街地活性化検討部会及び中心市街地活性化協議会による事業の検討、協力体制を強化し、まちなか観光振興の取り組みを推進していくとともに、数値目標達成に寄与する事業については基本計画に追加するなど、活性化に向け努力する。

さらに、中心市街地活性化協議会の主体的な議論や提言をなど、目標への反映が見込める民間の活動についても積極的に取り入れ、また必要に応じて既存事業と協働させることにより目標達成を確固たるものにしていく。

